

期 日：12月11日（水）

場 所：2年C組

司会者：川井 正仁

記録者：板垣 平

## 1 指導・助言の先生の紹介・・・高校教育課主任指導主事 勝又 貞臣 先生

## 2 授業者（後藤 弘康 先生）から

新テストでは従来と異なる出題形式となり、資史料の読解力が求められる。今年度の定期テストでは新テストを意識した資史料活用問題を出題していたが、特に史料問題に苦手意識がみられたので本時の授業を実施した。生徒は普段より「脳に汗をかく」様子が見られ、思考・判断に負荷をかけることが出来たと思う。今後はヒントや発問の量と質、人数の設定などが課題となる。

## 3 グループ協議報告

Aグループ（三浦直彦先生 [司会]、久米先生、江本先生、伊藤紘成先生）

発表：伊藤紘成先生

- ・ほとんどのグループで活発な話し合いがみられた。
- ・資料が豊富で思考が刺激されていた。
- ・学習シートに論拠を記述する欄があるなど、工夫されていた。
- ・他者の意見を比較・検討する時間があってもよかった。
- ・グループ学習の前に、自己思考の時間を確保したい。
- ・現代の皇位継承の話と結びついた内容だった。
- ・年間授業計画において、こういった活動をどれだけ導入できるか。授業進度との兼ね合いが課題。

Bグループ（関屋先生 [司会]、佐藤幸士先生、三浦義則先生、板垣先生、関谷先生）

発表：佐藤幸士先生

- ・活発な話し合いがみられた。
- ・会話文形式の問題を取り入れていたが、テーマや分野も横断的に学習できるため、問題解決能力の育成につながる授業であった。
- ・「答えのない問い」を発問した時に、同様に活発な話し合いになるか。教師の力量が問われる。
- ・他者と意見を議論させる時間がほしかった。
- ・自己評価活動の充実が、PDCA サイクルの獲得につながる。

#### 4 指導助言（勝又 貞臣 主任指導主事より）

- ・従来のセンター試験は「リード文」なしで解けてしまう問題も多かったが、新テストでは資史料から推察し習った知識を活用する「思考力を問う」問題が出題される。授業の中でこういった力を育成することは非常に意義がある。
- ・効果的にグループ学習が行われており、すべての生徒が授業に参加する主体的な学びになっていた。
- ・導入でカラー写真を大きく印刷したものを黒板に貼り出すなど、生徒の興味関心を引き出す仕掛けもあってよい。
- ・まなボードにグループの解答のみを書かせるのではなく、キーワードを書いて発表させることで生徒の「概念化する能力」が育成される。新学習指導要領にある「歴史的思考力」とは、時代を大観し自らの言葉で表現する能力のことである。

